

楽天ジュニアチームに選抜

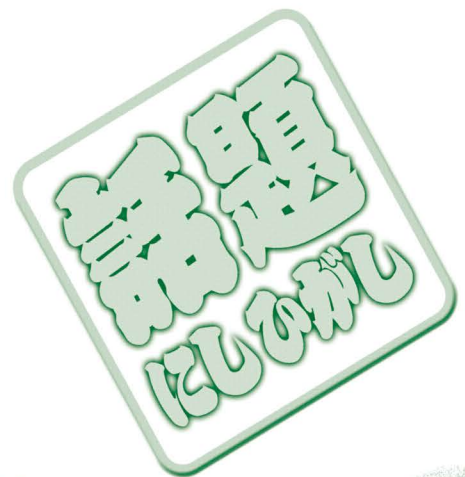
少年野球チーム「鶴田ルーキーズ」の棟方俊光君（葛蒲川小6年）が楽天イーグルスジュニアチームに選抜され、12月27～29日に宮崎県で開催された「NPB12 球団ジュニアトーナメント 2015（日本野球機構、プロ野球12球団主催）」に出場しました。

大会前の12月22日（火）、棟方君はチームの監督や保護者と役場を訪れ、相川町長に東北6県の代表として大会へ出場することを報告。「自分がチームを盛り上げて金メダルをとりたい」と意気込みを語りました。

チームはグループリーグ戦を勝ち抜き、準決勝に進出。中日ドラゴンズジュニアチームに惜しくも敗れたものの、東北の代表として最後まで諦めない姿を見せてくれました。



△相川町長に大会への出場報告をした棟方俊光君（中央）



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。

地域福祉の意識を高め合う

12月23日（水）、町社会福祉大会が鶴遊館で開かれ、参加した町民、福祉関係者約200人が地域福祉の意識を高め合いました。

胡桃館小学校の児童による登山囃子の演奏で始まった大会では、町社会福祉協議会の中野肇司会長が「町民の皆さまが地域福祉力の向上のため、心をひとつにすることに意義がある」と式辞を述べた後、町の社会福祉事業に功績のあった個人や団体へ顕彰状や感謝状が贈られました。

また、児童や生徒が日ごろ福祉について感じたことや体験したことなどを書いた作文コンクールの表彰式が行われ、小学校と中学校の部の最優秀賞、優秀賞の受賞者が作文を発表しました。



△小学校の部で最優秀賞に輝いた佐藤信吾君（胡桃館小4年）

生産者が剪定技術を習得

県産りんごの品質を高め、収量アップを目指すと、1月7日（木）、県りんご協会（福士春男会長）が新春の剪定大会を富士見湖パーク周辺の園地で開催し、津軽地域から参加した約1000人の生産者が剪定技術を学びました。

大会では、福士会長が「今後も県産りんごの販売額をあげていきたい。講師の方々の剪定技術を習得して、28年産のりんご生産へつなげてほしい」とあいさつした後、普通樹とわい化樹の園地に分かれ、7人の講師がノコギリやハサミを使って剪定を実演。講師たちは「りんごがたくさん採れるように、花芽に陽の光が当たるように剪定して」などと参加者にアドバイスしていました。



△参加者の前で解説をしながら剪定を実演する講師



△色とりどりの着物やスーツに身を包み式に臨む新成人たち

県内トップで成人式開催

1月3日（日）、鶴田町の成人式が県内トップを切って国際交流会館で開催され、華やかな着物や凛々しくスーツを着た新成人136人が、懐かしい友人との再会を喜びながら、大人としての自覚を新たに真剣な面持ちで式に臨んでいました。

新成人を代表して増田翔夢さんと長尾真紀乃さんが「成人としての責任の重さを実感し、若者らしい情熱と行動力で期待に応えられるよう頑張りたい」と謝辞。式の後には、新成人が企画した「成人のつどい」が行われ、駆けつけた中学校時代の恩師が当時のエピソードを披露しながら、「夢の実現に向け頑張ってください」とエールを送り、リンゴジュースで乾杯していました。

認知症へ優しい眼差しを

認知症の人やその家族を見守る「認知症サポーター」の養成講座が1月20日（水）、鶴遊館で開かれ、参加した町の保健協力員や町民ら約100人が認知症への理解を深めました。

養成講座は認知症になっても安心して暮らせるまちを目指すため、全国の地域や職場、学校などで行われ、昨年12月末時点で約713万人がサポーターとなっています。講座ではキャラバンメイト（講師役）の町社会福祉協議会の職員が認知症の種類や症状を説明。睡眠や運動などで発症のリスクを抑える予防法を紹介したほか、寸劇を交えながら参加者に認知症の人や家族を温かい目で見守ることの大切さを呼び掛けていました。



△キャラバンメイトによる寸劇も披露